

令和４年度 取組目標 通年評価

１ 校務分掌（その１）

分掌名	実践目標	具体的な取組み方法	評価	１年間の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
教務	①校務支援システムの活用	①校務支援システムの運用をよりスムーズに行い、効果的な活用ができるよう、各種証明書類の発行等も含めマニュアル整備などを行い、職員のサポートを行う。	4	校務支援システムの運用については、特に問題なく行うことができた。また、各種証明書類についても職員で協力し行うことができた。観点別評価においては、校務支援担当者より、講習会を行う等、職員に周知徹底することで、特に問題なく、効率よく運用できていた。定期考査前の職員会議では、必ず校務支援担当から取り扱い指示や、データ入力マニュアルの案内指示等、丁寧かつ適切に行えた。	１年生と２年生が観点別評価になり、家庭科や芸術など新しい教科・科目も観点別評価となるので、引き続き、校務支援システムの講習会などを行い、全職員がスムーズに活用できるようにする。また、各考査における処理マニュアルの定期的な提供は引き続き継続する。
	②読書活動の推進	②「朝の読書」活動を中心とした読書活動を推進し、生徒の図書室利用度を向上させる。	4	新型コロナウイルス感染症対策のため、活動の一部を縮小せざるを得なかったが、「朝の読書」はほぼ毎朝実施したり、生徒の意見を反映して、図書館の展示を工夫したりするなど、できる範囲で読書活動の推進を図った。	次年度も、学級文庫の貸し出しや、新刊案内などを行うことで、読書の推進に努める。
	③積極的な学校行事等の情報提供	③学校行事や式典、表彰等について、速やかに報道提供を行う。 ④ICTの積極的な活用を目指す。 ⑤ホームページを活用した情報発信を充実させる。 ⑥メール配信を積極的に活用し、必要な情報を家庭に迅速に伝える。	4	ICTの活用について、授業においてタブレットを利用するよう推進してきた。生徒や教職員に対するアンケートをタブレット等のICT機器を用いて実施したり、学期ごとにICT活用強化週間を設けたりして、ICT機器を用いた活動を推進した。 ホームページの活用でも、長尾幼稚園児の高校見学等、その都度、多彩な情報の発信に努めた。メール配信において、新型コロナウイルス感染症対策による連絡では十分に活用し、関係する生徒や保護者に対し、必要な情報を迅速に伝えることができた。	次年度も、速やかに最新情報が発信できるよう、努力と工夫をしていく。また、著作権や肖像権の問題を常に考慮する。 また、学校ホームページの大幅なりニューアルを計画している。
研究企画	生徒が学校生活に意欲的に取り組めるように授業研究とTSPミーティングの充実を図る。				
	①一人一人の教員の授業のスキルアップを図る。	①ICT教材活用実践授業や授業参観を行う。 ②年2回授業評価を行い、次年度への課題発見及び解決等につなげる。	4	それぞれの教員が、生徒一人ひとりに配慮し、理解度に応じた指導を実践した。そして、個別指導やICT教材を活用した授業等により、生徒の理解、興味・関心を高める工夫を行った。今後は、生徒に知識・技能を定着させる点が課題である。	来年度も実践目標を達成できるよう先生方に呼びかけ、全教員の共通理解のもと、引き続き継続させていく。
	②生徒主体の授業の実践	②教材等や授業展開を工夫することによって、生徒に関心を持たせ、活発かつ円滑な生徒主体の授業(アクティブラーニング)の実現を目指す。	4	新型コロナウイルス感染症対策により、ディスカッションやグループワークといった取り組みが難しいなか、教師・生徒間におけるコミュニケーションの工夫により、生徒の主体性を引き出し、受け身の授業から脱却しつつあることは授業アンケートの結果からもうかがわれた。今後さらに主体的で深い学びができるよう、生徒が表現する活動をより一層取り入れるよう工夫をし、一人ひとりが授業に参加する実感が持てる取り組みにつなげていく。	新型コロナウイルス感染症の対応が変化してきており、次年度はアクティブラーニング含め、教材の工夫、授業展開の工夫により、生徒により分かりやすい授業となるよう目指していく。
	③TSPミーティングの充実	④議題の精選に努め、TSPミーティングの充実を図る。		本年度は、生徒会が生徒から出た案を集約し、事前に話し合った結果、TSPミーティングの議題となるものがなかったため、実施に至らなかった。	教員、生徒及び保護者の三者で話し合う議題となる提案がなかなか出てこないところが課題である。TSPミーティングを知らない生徒達への指導をしていく必要がある。
進路指導	「希望進路の実現・進路意識の高揚」に向けて以下の項目について実践する。				
	①求人確保	①可能な範囲で企業訪問を行い、求人の確保に努める。	4	ジョブサポートティーチャーを中心に企業訪問を実施し、定着状況の確認及び求人開拓を行うことができた。	次年度もジョブサポートティーチャーを中心に積極的に企業訪問を実施し、職場定着を促すとともに求人開拓に努める。
	②各種のガイダンスやHR活動(進路指導関係)の充実	②新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じつつ、可能な範囲で各種のガイダンスを計画・実施する。また、生徒の実態にあわせて情報の質・量を精査し、本校生にとってより有効な情報提供をHR活動等を通じて行う。	3	県外からの来校者が多くなる進路ガイダンスは開催を見送ったが、卒業生講話(全学年対象:5月)、進路講演会(全学年対象:6月)、就職準備講習(3年生就職希望者対象:7月)、校内企業説明会(2年生対象:2月)、キャリア教育出前授業(1年生対象:3月)は実施することができた。	新型コロナウイルス対策を講じつつ、各種ガイダンスを実施し、生徒の進路意識向上に努めたい。また、様々な情報を取捨選択し、個に応じた情報提供にも努める。
	③入試・入社試験対策及び面接指導の充実	③進学課外や適性検査対策問題集の学習を通して、入試・入社試験に向けての学力を高める。また、面接カードを使用し、複数の教職員で面接練習を実施する。	3	進学課外、入試・入社試験対策及び面接練習を予定通り実施することができた。	次年度も朝読の時間や放課後の課外を通して入試・適性検査対策を実施するとともに、面接カードを利用して面接指導の充実に努める。
生徒指導	①「挨拶の励行・服装の整備・時間を守る・清掃をきちんとする」等、基本的生活習慣に対する意識の徹底と確立をはかる。	①朝の校門指導を継続して行い、挨拶・遅刻・服装についての指導を行う。教員も積極的に声かけを行う。	3	頭髪(ツブブロック、茶髪)の指導が必要な生徒が年間を通じて常に数名いた。大体指導されている生徒は決まっていた、担任や部の顧問にも協力してもらい指導してきたが、なかなか根気のいる作業で完全に改善させるのには至らなかった。	全国的に校則の見直し問題が起きているなか、頭髪に関しても緩和する傾向にあるが、志度高校は就職を中心とした進路指導に重きを置いている学校であるので頭髪を含む身だしなみに関しては、今後も妥協せずに指導していく。
	②生徒が安全で安心して学べる学校であること。そして、地域の人々からも信頼される学校であるように努めていく。	②いじめや盗難が発生しないように学年団・担任・教育相談部等と連携を図り、未然防止に努める。また、いじめ防止委員会の充実を図る。	4	今年度、監視カメラが設置されたことにより、現場の教員の目だけでは限界が感じられていた、いじめ問題、盗難防止対策、不審者対策等にかかなり効果が発揮されたと感じた。	監視カメラに、だいたひ助けられた感はあるが、最近では些細なことや遊び半分から、いきなりいじめ問題に発展することがある。大人でも例外ではないが、生徒同士の人間関係をつくるコミュニケーション能力が年々弱くなってきていると感じられる。教育相談とともに知恵を絞りながら対応していく。
	③道徳教育を継続し、相手を思いやる気持ちや感謝する気持ちが育めるよう努めている。	③各種講演会・安全教室を実施し、思いやりの心を育てることと、自己管理能力を向上させる。	4	新型コロナウイルス感染症のまん延が気になることもあったが、予定していた講演会も全て実施し、生徒にも有効な情報を提供できた。。	次年度も例年通り講演会を実施していこうと考えている。最近、県下でも高校生が大麻に絡む事件が起きているようで、特に薬物乱用防止教室には力を入れていく。

学科名	実践目標	具体的な取組み方法	評価	前期の反省・課題	次年度の具体的な取組み目標
人権・同和教育	①生徒の人権感覚を高め、人権課題を主体的に解決していく姿勢を養う。	①(生徒)人権・同和教育HRの教材・内容の充実に努める。先進校や他校の教材・指導案を参考にしながら、教材や内容の更新・充実を図る。生徒向け人権だよりを発行して、人権意識を高める。	4	各学年の人権・同和教育部の担当教員が、分担して指導案づくりに取り組んでいる。指導案を基に、各クラス担任がクラスの実情に応じてアレンジを加え、人権・同和教育HRを行っている。 人権HRの感想文を東かがわ市人権作品展の作文部門に応募し、最優秀賞、優秀賞をいただいた。 生徒版「人権だより」を発行するとともに、文化祭では人権展で他の生徒の意見をみる機会を作り、人権意識を高める機会とした。また、今年度は、人権講演会を開催し、多様な性の在り方ということで、高野晶さんを招き、意識を高めるきっかけとした。	各担当者に考えてもらった人権HRの指導案を基に、クラスの実情に応じて担任の先生にアレンジを加えてもらい、生徒が理解しやすい形に変えて伝えてもっている。生徒にも好評であり、今後も続けていく。また、文化祭で人権展を出品し、他のクラスの人たちの人権HRの感想文を見る機会や、人権の歴史などについて知る機会を設けていく。
	②教職員の人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を養う。	②(教職員)研究会・現地研修会等の案内を積極的に行い、強く参加を呼びかける。新転任者や経年経験者研修対象者への研修や、全員を対象とした定期的な研修の実施を行い、人権感覚の養成を図る。第三次取りまとめを参考にして、各教科の授業において、人権教育的な視点を取り入れてもらう。	3	現地研修では対象者が一人欠席となったが、今年も石田高校と合同で無事開催できた。後期から、新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、全職員を対象とした研修会に参加することが可能となり、部落解放講演会などの研修会に参加してもらうことができた。	今年度も研究会・研修会は新型コロナウイルス感染症のため、大幅に減った。しかし、次年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなると予測され、積極的に研修会への参加を促していく。また、現地研修会は、他校と合同で行う予定である。せっかくの機会なので討論会も実施し、交流を図っていく。職員版「人権だより」は予定通り発行できており、今後も続けていく。
	③保護者に対する啓発を積極的に行う。	③(保護者)人権だよりを通して、人権啓発を行う。PTA総会で人権講話を行う。研究会・研修会等の案内を積極的に行い、参加を呼びかける。	2	予定していたすべての人権だよりは発行できた。PTA総会が中止になったため、人権講話は行えていない。また、新型コロナウイルス感染症の影響で前期の各種研修会が中止となったため、保護者の参加する機会がなかったが、後期からは、高野晶さんの人権講演会等、保護者を招いての研修会を開催することができた。	来年度は、研修会の開催に関して新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなることが予測される。研修会等への参加が可能となると思われるので、積極的に参加を呼びかけていく。
特別活動	様々な学校行事(集団活動)、部活動を通じて、未来を支える健康・体力・コミュニケーション力を伸ばさせるとともに規範意識・礼節をわきまえた社会に貢献できる人材育成を図る。	①部活動を通しての人間形成と各種大会での上位入賞 部活動での地域貢献活動や、各種大会で上位入賞できるよう指導するとともに、今年度開催される四国総体の運営の手伝いを積極的に行う。	3	県総体において、昨年度に引き続き柔道部が個人で全国大会の出場を果たしたほか、四国大会には弓道部、柔道部、新体操・ダンス部が出場した。	新型コロナウイルス感染症の収束を踏まえ、更なる競技力の向上に努め、上位入賞できる部活動が増えるよう努める。
		②様々な行事に生徒一人ひとりが主体的に参加 体育祭や志度高祭、クラスマッチ等の学校行事において、コロナ感染予防等をふまえた工夫した企画・運営や、行事において全校生が一致団結・協力し、計画・運営・活動ができるよう指導・サポートする。	4	体育祭は新型コロナウイルス感染症の影響を考え一般公開を中止していたが、3年保護者のみ短時間であるが可能とした。また、志度高祭は生徒の家族と中学3年生を対象に披露することができた。クラス数は減少しているが、全校生が一致団結・協力し、計画・運営・活動することができた。	新型コロナウイルス感染症の収束を踏まえ、以前のような活気あふれる行事を行えるよう努める。
		③ボランティア活動に自主的に参加できる生徒の育成 ボランティア活動を積極的に推進し、自主的に参加する気持ちを養う。 ホームルーム活動での地域清掃活動の取り組み。	3	委員会におけるボランティア活動はできていないが、クラス単位で行う地域清掃ボランティアは、多くのクラスで実施できた。	ホームルームでの清掃活動は、ほぼ全クラスで実施できているため、今後も続けていく。
分掌名	実践目標	具体的な取組み方法	評価	1年間の反省・課題	
教育相談	①関係者間の連携を密にして、生徒・保護者および問題を持つ生徒に関わる教員のサポートを行う。	①担任または生徒や関わりのある教職員・保護者・スクールカウンセラー間の連携を密にして、学校内外の情報収集・共有に努め、連携してサポートを行う。	4	入学前の相談希望者には、春休み中や入学式当日までに全て調整し対応できた。また、スクールカウンセリングには必ず担任の先生を通して予約確認をし、その後の対応協議もすることで、情報共有をすることができた。	事前面談を申し出た生徒は、比較的原順に学校生活になじめていることから、入学前アンケートは引き続き実施していく。
	②相談しやすい雰囲気づくりを心がける。	②教育相談便りを発行し、スクールカウンセラー来校の日程等を伝える。学校生活アンケートを実施し、見守りや面談が必要な生徒をピックアップする。	3	相談だよりは第2号まで発行済みである。 心の健康アンケートを実施し、集計結果をスクールカウンセラーに分析していただいた。悩みを持ちつつも誰にも相談できない生徒の把握につなげられた。今後は担任の先生や学年団、教育相談部で対応協議する予定である。	相談だよりは各学期とも発行できた。次年度も発行予定である。アンケートも実施し、悩みを持つ生徒の把握に努める。
保健	生徒や職員の健康に配慮し、元気のある学校づくりを目指す。 新型コロナウイルス感染症の予防をしていく。	①4～6月、生徒の定期健康診断を行う。 ②各学年において正しい知識を理解させ、関心と責任を持たせる。 状況に応じてできることをしていく。 ③新型コロナウイルス感染症の資料の掲示、予防の呼びかけ(検温、マスクの着用、手洗いうがい、手指消毒、喚気等)	4	生徒の健康診断を予定通り実施できた。また、性教育講演会も全校生徒を対象に実施できた。新型コロナウイルス感染症対策については、保健委員会を中心に、実施できた。	次年度は、がん教育を全校生徒を対象に行う予定である。また、各学年ごとに、心肺蘇生法講習会(AED)やお口の健康教室、性教育講演会を実施して、生徒の健康への意識を高めていく。
総務	①保護者(PTA)および地域、同窓会との円滑な関係を維持し、教育諸活動において多面的な協力を得られるよう発信する。	①関係各位に学校行事等の通知と積極的な参加を呼びかける。	4	昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかったことが、少しずつできるようになった。具体的には、体育祭に3年生の保護者が観覧できたこと、志度高祭に生徒の家族と中学3年生を招待できたこと、PTA評議員会も開催できたこと、PTA研修会へ参加できたことなどである。 また、総務部が関わった訳ではないが、1月に長尾幼稚園の園児を招待して工業科の技術を見学してもらった行事はとても好評で、新聞やテレビにも取り上げられた。地域連携の好例だった。	新型コロナウイルス感染症の状況次第ではあるが、多くの行事で保護者や地域、同窓会の方々とも関われる機会を増やしていく。
	②校舎・器具・備品等の丁寧な取扱いを意識し、公共物を大切に使用することや整頓することの意識を高揚・定着させる。	②清掃活動や係活動において、その意識を持たせる。	3	清掃活動は、生徒たちも前向きに取り組めている。緑化活動についても、清掃美化委員は、係の先生方を中心に積極的に進めている。部室を大切に使用しない部活動があったのが残念であった。	今年度同様、引き続いて活動や指導を続けていく。

4 : よくできた 3 : まあまあできた 2 : あまりできなかった 1 : できなかった

2 学科

学科名	実践目標	具体的な取組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
商業	専門高校としての特色を出し、社会人・学生として恥ずかしくない人材を育てる。	①ビジネスマナーの向上。	3	新型コロナウイルス感染症の影響により、志度高祭の内容変更・社会人講師派遣事業の削減により、予定していた取り組みに支障が出た。ただ、2年生のインタビューシップや、志度高デパートにおいて3年生が販売実習をできたことは収穫であった。後期では、社会人講師招聘事業を予定通りに実施できた。	新型コロナウイルス感染症の影響は軽減すると予測されており、次年度は、志度高祭の内容の充実や社会人講師派遣事業も積極的に実施していく。また、2年生のインタビューシップも今年度同様実施し、発表会也更に充実したものにする。
		②検定合格率の向上と高度資格の取得。	3	新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度からの進度の遅れが響き、授業の進度に影響が出たことはある程度致し方ない。積極的に課外等を実施することで補ったが、検定への影響は少なからずあり、合格率で当初の目標に届かなかった。	今年度は授業進度の遅れもなく予定通り進め、積極的に課外等で補うことで検定合格者を例年以上に上げて、全商3種目合格者を今年度の2倍に増やすことを目標にする。
		③進学先や就職先の充実。	4	就職に関しては、今年度も求人数に恵まれ、希望者全員が第一次募集の試験で内定をいただいた。進学は、推薦入試を中心に合格率は高かったが、安易な進路へ傾いてしまうところなどは、今後も課題である。久しぶりに指定校推薦以外で大阪経済大学や福岡大学に合格者を出すことができたのは収穫であり、次年度につなげていく。	就職・進学に関しては、適切な情報提供を行いながら早めに志望先を決定し、きめ細かな面接指導や小論文指導等を徹底していく。特に進学において、商業科特別推薦入試等を利用したの国公立大学の合格者を目指す。
電子機械	自らの進路目標を設定し、積極的かつ体系的に検定・資格試験取得に取り組むことを通じて、技術・技能の向上と正しい職業観・人生観を育てる。 知識・技能の基礎・基本を確実に身につけ、卒業後は地域産業界の中心となり活躍できる、人材を育成する。	①科目間の横断的学習により、専門的知識・技能の基礎基本を充実させる。	3	実習と座学、専門科目間の授業、既に学んだ知識の復習を関連付けて行っているが、知識が蓄えられていないためか、生徒の中ではそれらがうまくリンクせず、理解を深めるには至っていないように思われる。科目間の横断的学習の機会を捉え、復習や関連付けの機会をより多くして知識・技能の定着を図りたい。	基礎基本となる知識や技能の習得は必須であるが、これらを幅広く生かすために、科目間の連携を深めていきたい。そのために、科目内で、関連する他科目の知識を引用しての説明や問いかけの機会を増やす。
		②検定・資格取得に自主的かつ積極的に取り組む。	4	多くの者が資格取得に自主的に取り組んでいる。しかし、難易度の高い資格への挑戦や、放課後等で実施する課外指導に多くの時間を要する資格への取り組みが消極的である。また、運動部等で熱心に活動する者の受験が少ない。自らの将来を考え必要な資格に取り組むよう指導していく。	自らのキャリアプランに沿って、必要な資格を体系的に取得するよう指導する。このことにより、自分の将来を考えるきっかけとし、より効率的にかつ積極的な資格取得が可能になると考える。
		③ものづくりを通して、技術・技能の向上と、思考力・発想力を養う。	3	基本技術・技能の定着が十分とは言えず、同一実習において学年進捗とともに高度化させる狙いが円滑に進行できていない。繰り返しの学習となるが前年度に立ち戻り基礎基本の充実を図っている。また、考えながら取り組み、試行錯誤しながら工夫して技術技能を向上させようとする姿勢に乏しい。一部の実習では作品デザインや加工方法、作業工程を生徒に考えさせ製作させており、興味を持って失敗しながらも試行錯誤し、取り組めている。	一年次、基礎となる技術・技能の習得のため、要素作業を繰り返し行う。二年次、より高精度な加工や高度化された加工法を学ぶ。三年次、作品製作を通し加工方法や工程を考える力を身に付けさせるとともに、自ら考え、問題解決する姿勢を身に付ける。
情報科学	高校生として社会に対応できる人間教育を行い、技術・技能の向上に積極的に取り組む生徒を育てる。	①生活習慣の基本を身に付けさせる。	3	多くの生徒が、きちんとした生活習慣を身に付けている。しかし、遅刻をする生徒が増えているように感じており、今後も指導を続けていく。	時間を守ることや、提出物を遅れずに出すことなどは、学習をする上で、もっとも重要なことである。日頃から指導を続けているが、来年度も引き続き指導する。
		②資格・検定等の受験率及び合格率の向上を目指す。	3	担任や授業担当から資格・検定の案内等を行っており、積極的に受験をする生徒がいる。さらに受験率・合格率が上がるように、指導をしていく。	自分の希望する進路において、どのような学習が必要であり、どのような資格や検定試験が役に立つのかをもう一度しっかりと考えさせる必要がある。日頃から授業時などにおいても、指導する。
		③就職・進学(電気系・情報系)の幅を広げる。	3	就職については、多くの企業から求人をしていただき、生徒それぞれが自ら将来のことを考えて決定できるように指導ができている。進学に関しても、学校の情報を集めて希望するよう指導している。ただし、希望する学校に対して、生徒個々の努力が不足していることも見受けられることが課題である。	早い段階から自分の進路について考え、実際に自分で見つめなおすによって考えるように指導する。

4 : よくできた 3 : まあまあできた 2 : あまりできなかった 1 : できなかった

3 学年団

学年団	実践目標	具体的な取り組み方法	評価	1年間の反省・課題	次年度の具体的な取り組み目標
3 年 団	生徒の進路実現	①基礎学力の充実を図る。	3	朝の読書の時間を利用して、一般教養対策問題集を使用し、基礎的な知識や教養を身に付ける指導を繰り返した。	毎朝一般教養対策問題集を使って基礎的な知識を繰り返しつけていくよう指導を継続していく。
		②的確な情報発信に努める。	4	進路に関する情報発信を的確に行うことができた。	進路に関する的確な情報発信ができるよう努力する。
		③面接指導を充実させる。	4	他学年団教員の協力のもと、充実した面接指導を行うことができた。	面接指導の担当教員を決めたり、ポートフォリオに面接指導履歴を残したりするなど進捗状況を可視化する。
		④進路決定後の生活指導	3	進路決定者に関しては、引き続き生活指導を行った。	生徒指導・家庭とも連携をとりながら粘り強く指導していく。
2 年 団	①充実した学校生活の実現	①学習活動、時間厳守、清掃活動、服装整備、挨拶励行	4	引き続き生活の基本を徹底するよう指導を行った。	挨拶・清掃・時間厳守・校則の遵守など生活習慣の確立と規範意識を醸成する。
	②資格・検定取得への積極的な取り組み	②生徒個々の目標や計画を立てさせ、今何をすべきかを考えさせる。	3	検定直前になって慌てることがないように日々の学習の積み重ねが大切であることを根気強く指導した。	自らの進路に必要な資格・検定を着実に取得できるように指導していく。
	③進路意識の向上と実現へ向けての準備	③計画的な学習活動や情報収集を積極的に開始させる。	4	進路情報の提供を継続的に行った。	資格・検定の取得に向けて計画的に学習させ、悔いのない進路の選択・実現に向けて具体的な行動を促す。
1 年 団	①良好な人間関係の構築	①人を尊重し、思いやる心を育てる。	3	学級担任だけでなく諸先生方の協力により良好な人間関係が構築されつつある。	一人ひとりを尊重し、人を思いやる心を育てる。
	②落ち着いた学校生活	②挨拶・服装・清掃・時間厳守の徹底など規範意識を持たせる。	4	規範意識が十分でない生徒が少数であるが見られるので、丁寧な指導で改善させていく必要がある。	挨拶・服装・清掃・時間厳守の徹底など規範意識を持たせる。
	③学力向上と進路実現への啓発	③検定取得等の高い目標を持ち、計画的に学習する態度を養う。	3	検定取得意識は高まってきたが、日々の授業へ積極的な取り組みが不十分な生徒が見られるので、徹底させる必要がある。	計画的に学習する態度を養い、検定取得等に結び付ける。

4 : よくできた 3 : まあまあできた 2 : あまりできなかった 1 : できなかった